



循環器内科診療部長
小笠原 延行

専門分野／循環器、虚血性心疾患
●日本循環器学会認定循環器専門医
●日本内科学会総合内科専門医・指導医
●日本心血管インターベーション学会専門医
●経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVR)指導医
●JMECCインストラクター
●浅大腿動脈ステントグラフト実施医

臨床検査科部長(臨床検査科担当)
岡田 昌子

専門分野／循環器内科(弁膜症、
先天性心疾患、心筋症)、
循環器超音波検査(経食道、
コントラスト、冠動脈)
●日本内科学会総合内科専門医・指導医
●日本循環器学会認定循環器専門医・指導医
●日本超音波学会認定超音波専門医・指導医
●SHD心エコー図認証医
●心エコー図専門医

循環器内科部長(不整脈治療担当)
三好 美和

専門分野／循環器、不整脈疾患、
カテーテルアブレーション、
ペースメーカー手術
●循環器内科専門医
●不整脈専門医
●総合内科専門医
●医学博士
●内科指導医
●難病指定医
●ICD CRTD 留置認定医
●リードレスペースメカ ブロクター(Micra)
●リードレスペースメカ認定医(Aveir)

医長
佐伯 一

専門分野／消カテーテル治療
(心疾患・不整脈)、
心臓リハビリテーション

医長
有田 陽

専門分野／循環器一般

医長
中川 雅美

専門分野／超音波診断
(循環器、血管領域)

医師
藏本 見帆

医師
倉岡 絢野

医師
福井 智大

専門分野／循環器一般

医師
山本 将平

医師
小畑 理沙子

医師
高木 宏太

医師
稲井 賢伸

Message



365日24時間体制のホットラインにて、開業医の先生、近隣病院の先生からの患者さんの紹介を受けており、断らないことをモットーとしています。循環器疾患かどうか判断に迷う症例や、まずは相談してみたいといった場合でも、どうぞお気軽にお問い合わせください。また、紹介いただいた患者さんにつきましても、必ずご紹介元の先生のところで引き続き診療していただけるよう努めています。今後ともよろしくお願いします。



循環器内科の
詳細はこちら



ACCESS

電車でお越しの方

JR東西線	新福島駅下車 3番出口より徒歩5分
京阪電車	中之島駅下車 1番出口より徒歩5分
JR環状線	福島駅下車 徒歩10分、野田駅 徒歩10分
阪神電車	福島駅下車 徒歩10分、野田駅 徒歩15分
大阪メトロ	千日前線 玉川駅下車 徒歩10分



市バスでお越しの方

鶴町四丁目[55]方面 「堂島大橋北詰」下車 すぐ
西島車庫前[56]方面 「福島西通」下車 徒歩5分
「大阪福島税務署」下車 徒歩5分
船津橋[53]方面 「堂島大橋」下車 徒歩5分
大阪メトロオンデマンドバス 福島エリア
「JCHO大阪病院」下車

車でお越しの方

タクシー 大阪駅より約10分
駐車場があります(割引制度あり)



ホームページ



Google Map

地域医療連携室 (平日8:30~19:30、土曜日9:00~13:00)

●TEL 06-6441-5463 (直) FAX 06-6441-0512 (直)

ホットライン (24時間365日)

●脳卒中 080-3728-9281 循環器 090-6374-4374



独立行政法人 地域医療機能推進機構
大阪病院
Osaka Hospital

地域医療支援病院 大阪府がん診療拠点病院 救急指定病院 災害医療協力病院 臨床研修指定病院

〒553-0003 大阪市福島区福島 4-2-78
FAX:06-6445-8900
URL:https://osaka.jcho.go.jp
TEL: 06-6441-5451 (代表)

独立行政法人
地域医療機能推進機構(JCHO)

OSAKA HOSPITAL

診療科案内

循環器内科

心臓血管外科



大阪病院
Osaka Hospital



経験豊富なスタッフがOne Teamとなって、患者さんファーストの医療を提供。

虚血性心疾患治療や不整脈治療を中心に、専門的かつ地域密着型の診療を心がけています。循環器疾患の診療は、チーム医療があって初めて成り立ちます。医師をはじめ、臨床工学技士、放射線技師、看護師が一丸となって、患者さんにより良い医療の提供を目指しています。

01 365日24時間体制で救急対応

24時間体制で、循環器専門医が常駐しており、救急患者さんに対応しています。担当医がホットラインを携帯し、救急隊や地域の先生方からの相談に直接応じます。



02 心臓血管外科との密な連携

心臓血管外科と密に連携し、手術適応の症例は迅速に紹介しています。当院はハイブリッド手術室を完備しており、大動脈に対するステント治療も可能です。



03 痛みの少ない不整脈治療が可能

経験豊富な不整脈専門医が2名在籍しており、局所麻酔または全身麻酔による痛みの少ない治療を行っています。



虚血性心疾患

急性心筋梗塞に対する緊急手術対応だけでなく、心筋シンチ、冠動脈CT、FFRアンギオなど、虚血診断のためのスクリーニング検査を行うことができます。

弁膜症

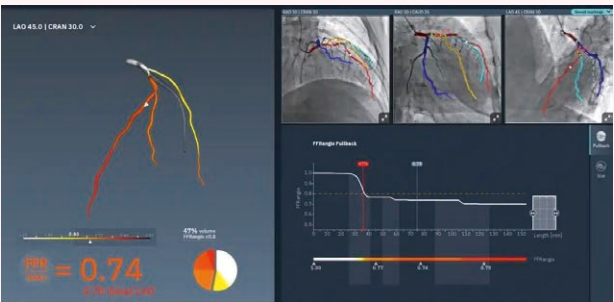
ハートチームとして心臓血管外科と強力なタッグを組み、経カテーテルの大動脈弁置換術を行っています。

不整脈

心房細動をはじめ、心房頻拍、心室性期外収縮、発作性上室性頻脈など、さまざまな不整脈疾患に対して適切な治療を提供しています。

下肢動脈疾患

近年増加傾向にある間歇性跛行から重症下肢虚血までの末梢動脈疾患に対して、経皮的下肢動脈形成術を施行しています。また、当院にはフットケアチームがあり、当科のみでなく、皮膚科形成外科等の診療科、看護師、義肢装具士によるチーム医療で患者さんのADL、QOL改善に寄与しています。



主な治療・処置	年間症例数
経皮的冠動脈形成術	160
経カテーテル大動脈弁留置	26
カテーテルアブレーション	202

(2024年度)



できるだけ低侵襲な治療を、患者さんへ適切に安全に。

循環器内科との強固な連携のもと、ハートチームとして患者さんに合わせた診療を進めています。大動脈瘤に対するステントグラフトや経カテーテルの大動脈弁置換術、小開胸心臓血管外科手術など、低侵襲な治療を安全かつ適切に患者さんへ提供することを目指しています。

01 循環器内科とハートチームを結成

ハートチームとして循環器内科と連携し、それぞれの患者さんに適した治療を提供しています。2019年よりハートチームで経カテーテル的大動脈弁置換術を行っており、2024年には100例を超えました。



02 緊急手術の体制を整備

循環器内科のホットラインで緊急手術の症例も積極的に対応しています。今年度からは麻酔科の協力を得て、日中も緊急手術に対応することが可能となりました。



03 低侵襲な治療法を積極的に導入

2019年より小開胸心臓血管手術を導入し、可能な症例には弁膜症を中心に低侵襲心臓外科手術(MICS)を行なっています。



冠動脈疾患

狭心症、心筋梗塞などの冠動脈疾患に対しては、ハートチームで十分に検討を重ね、経皮的冠動脈形成術より適していると判断された症例に冠動脈バイパス術を行っています。また、急性心筋梗塞後の機械的合併症である心破裂、心室中隔穿孔、僧帽弁乳頭筋断裂に対する緊急手術にも対応しています。慢性期の左室瘤や虚血性僧帽弁閉鎖不全に対しては、左室形成術や僧帽弁形成術を行っています。

弁膜症疾患

僧帽弁閉鎖不全症に関しては可能であれば弁置換を行わず弁形成術を行っていましたが、僧帽弁手術のみ行う症例については右小開胸による低侵襲心臓手術(MICS=Minimal invasive cardiac surgery)を導入しました。大動脈弁疾患に関しても、経カテーテル的大動脈弁置換術の施設認定を取得したことにより、手術リスクの高い患者さんには血管内からの治療が可能となりました。

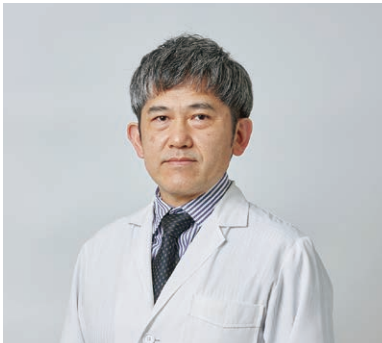
大動脈疾患

ハイブリッド手術室の機能を活かして、大動脈疾患に対してはステントグラフト内挿術を積極的に行っています。通常の大動脈瘤に関しては、胸部、腹部とも複数機種のステントグラフト実施医、指導医資格を取得しており、それぞれの動脈瘤の形状に適したステントグラフトを使用できるようにしています。



主な治療・処置	年間症例数
開心術	95
経カテーテルの大動脈弁置換術	22
ステントグラフト内挿術	26

(2024年度)



心臓血管外科主任部長

北林 克清

専門分野／成人心臓血管外科

- 医学博士
- 日本外科学会専門医
- 心臓血管外科専門医・修練指導医
- 胸部・腹部大動脈ステントグラフト内挿術指導医
- 経カテーテル的大動脈弁置換術実施医
- 低侵襲心臓手術認定医

心臓血管外科医長

中江 昌郎

専門分野／成人心臓血管外科

- 日本外科学会専門医
- 心臓血管外科専門医
- 移植認定医

院長特任補佐

市川 肇

専門分野／心臓血管外科、先天性心疾患、成人先天性心疾患

- 外科専門医
- 心臓血管外科専門医
- 成人先天性心疾患専門医
- 移植学会専門医
- 埋め込み型補助人工心臓実施医
- 小児補助人工心臓実施医

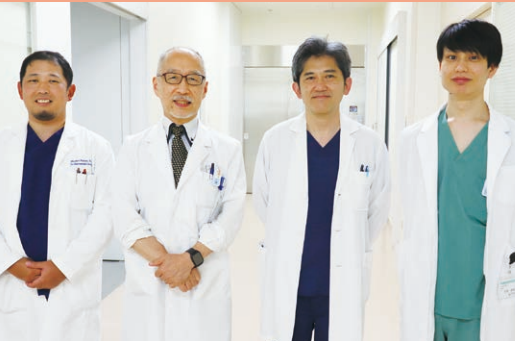
医師

折橋 寛典

Message



当科では、2015年の新病院移転後、循環器内科との連携を強化し、心臓大血管疾患に対する手術症例数を着実に増やしてきました。ステントグラフト内挿術、経カテーテル的大動脈弁置換術をはじめ、僧帽弁閉鎖不全症や大動脈弁閉鎖不全症についても、低侵襲心臓手術(MICS)の症例を重ねています。今後も可能な限り患者さんの負担を軽減できる治療を目指し、また安定した手術成績を残せるよう努力を続けていきます。



心臓血管外科の詳細はこちら

